

伊丹ルーテル教会 顕現主日礼拝

2021年1月3日

前奏：

招きのことば：詩編 75 編 1-6 節

【指揮者によって、「滅ぼさないでください」に合わせて。賛歌。アサフの詩。歌。】

あなたに感謝をささげます。神よ、あなたに感謝をささげます。

御名はわたしたちの近くにいまし人々は驚くべき御業を物語ります。

「わたしは必ず時を選び、公平な裁きを行う。地はそこに住むすべてのものと共に

溶け去ろうとしている。しかし、わたしは自ら地の柱を固める。〔セラ

わたしは驕る者たちに、驕るなど言おう。逆らう者に言おう、角をそびやかすなと。

お前たちの角を高くそびやかすな。胸を張って断言するな。】

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。

(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

新しい2021年が始まりました。主の恵みの2021年です。イエス様が私たちをみ言葉をもって導いてくださる新しい一年が始まりました。感謝をいたします。私たちを赦し、私たちをあなたの御手の中で育て、私たちを用いてください。神様、今朝もともに礼拝にあずかり、神様のみ言葉をいただいて一年を、一週間を始めることができることを心から感謝をいたします。新たにいのちをいただき、私たちは喜びに満たされて新しい一歩を踏み出します。どうぞ新しい一週、あたらしい年も、私たち一人一人を顧みて、あなたからの導きとお支えによって歩み切ることができますようにと祈ります。神様の恵みによって人々を赦し、神様のまことをもって正しく歩んでいくことができますように、あなたの証し人として人々にイエス様の福音をお伝えすることができますように、そして、互いに愛し合い、高めあう年となりますように。新型コロナウイルス・ウィルスの感染はまた拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：エフェソ3章1-12節

こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロは……。あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがひありません。初めに手短かに書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。あなたがたは、それを読めば、キリストによって実現されるこの計画を、わたしがどのように理解しているかが分かると思います。この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。この恵みは、聖なる者たちすべての中で最もつまらない者であるわたしに与えられました。わたしは、この恵みにより、キリストの計り知れない富について、異邦人に福音を告げ知らせており、すべてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです。わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。

福音書朗読：マタイによる福音書2章1-12節

イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」これを

聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。『ユダの地、ベツレヘムよ、お前はユダの指導者たちの中で決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

讚美歌 508 番

- 1 主よ、日に日に 増したまえ、罪を悔ゆる まごころを。
きよめらるる 身のさちを、仕えまつる 喜びを。
- 2 主よ、日に日に 増したまえ、試みには 勝つものと。
みこころをば 知るものと、みことばにぞ 立つものと。
- 3 主よ、日に日に 見せたまえ、のりとすべき み姿を。
あまつ家に 行く道を、とこしなえの み栄えを。 **アーメン**

説教：「星を見て喜びにあふれた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

新年おめでとうございます。私たちは与えられたいのちを一步一步歩んでいます。一年を振り返っていろいろな出来事の背後で神さまが憐みをもってご配慮下さってきたことにあらためて気づかされ、感謝をしました。また、自覚がなかったけれど考えてみれば自分のとても至らなかつたところを示されて、神さまの前で悔い改めました。振り返って感謝し、悔い改めること大切です。それと共に、そこにとどまらず新しい一步を踏み出すことも大切です。

今日は顕現主日という日曜日です。イエス・キリストの誕生が、それまで旧約聖書によって導かれてきたイスラエルの民だけではなく、聖書を全く知らなかったそれ以外の民、異邦人にも知らされたこと、世界の救い主の誕生がいよいよ世界にあらわにされたことを覚える日です。具体的には、東の国の博士たちがユダヤ人の王の誕生を知って訪ねてきて、イエス・キリストに出会ったことから教えられる日です。これまでクリスマスの飾りつけを見ながらキリストを待ち望み、お生まれになったことを祝い、その意味を味わってきました。今日から新しい歩みを始めます。今日でクリスマスの季節を終えます。

東の方から学者たちがイエス様の誕生を知って礼拝するために旅をしてきました。彼らの経験から、一緒に学んでいきましょう。

第1に、博士たちはみ言葉に導かれました。博士たちはユダヤ人の王が生まれたことを、星を見て占星術で知ったのでしょうか。当時は星の運行を記録して分析する天文学と、不思議なことを神秘的に解釈する占星学の区別がありませんでした。東の国、といいますから、メソポタミアの地方でしょうか、今でいう科学の進んでいた国だったのでしょうか。

科学者たちの仕事は、できるだけ正確なデータを集めること、そして不思議に見えることについて説明する仮説を立てること、さらに調査をして仮説が正しいかどうかの検証をしています。博士たちもそのような毎日を送っていました。あるとき、もしかしたらユダヤの王の誕生を示すのではないか、という星を見つけました。

博士たちはそれ以上わかりませんでした。ユダヤ人の王子なのだからヘロデ王のところに行ったらわかるだろう、と推察してエルサレムの宮殿を訪ねました。しかしどうだったでしょう。神の御子イエス・キリストの誕生された地は、科学的な推理によってではなく、最終的には旧約聖書の預言者に託された神様のことばによって確定されます。ヘロデ王はエルサレムの神殿で仕える民の祭司長や、人々に旧約聖書を教える律法学者らをみんな集めて、聖書にどう書かれているかを調べさせたのです。彼らは、ミカ書5章1節から、神の威厳をもって民を養い、敵の手から救うイスラエルを治める者がベツレヘムから出る、というみ言葉を探し出して、ヘロデ王と博士たちに伝えました。実際に、イエス様はベツレヘムでお生まれになりました。

イエス様に会うことは、聖書のみ言葉によって実現します。それは、それまで聖書を知らなかった異邦人、東の国の博士たちも同じでした。科学によってはイエス様に会うことはできません。自分の集めたデータを、自分なりに分析して仮説を立て、それを検証することは、人間にとってとても大切な作業ですが、博士たちが最後は聖書の預言によってイエス様の生まれたところを知らされました。私たちがイエス様に会うのは、自分の知的な作業によるのではなく、神様があなたに語りかける聖書のみ言葉によって出会ってくださいます。自分で考えて、きっと神様はこうお考えになっている、きっと神様はこんな方なのだ、と推理する歩みを超えましょう。あなたを作り、あなたを救う神の子、イエス様は、聖書の言葉を通してご自分を現わされます。

新しい年、私たちが聖書のみ言葉を通して神様が私たちに会ってくださること、聖霊は聖書のみ言葉によって私たちを照らし、私たちを赦し、私たちをきよめ、私たちを導いてくださいます。主日礼拝で神さまのみ言葉を聞いて強められる一年としましょう。(Iテモテ1:18)

第2に、博士たちはイエス様を礼拝したことに注目しましょう。第1の点でイエス様の誕生の場所を聖書によって知らされたことを聞きましたが、博士たちはそれを聞いてイエス様のところへさらに歩みを進めました。イエス様を礼拝するためでした。

ヘロデ王は、民の祭司長や預言者を招集しました。博士たちと共に、彼らからベツレヘムにユダヤの王が生まれたことを聞きました。しかし礼拝に行きませんでした。むしろ博士たちに詳しく調べて報告してくれたら、あとで自分も行って拝むと嘘をつきました。ヘロデは博士たちが戻ってこなかったのを知って怒りに燃えました。王としての自分の立場を脅かす新しい王が、自分の知らないところで誕生したということに我慢ができなかったのです。ヨセフは夢で神のみ告げを聞いて一家でエジプトに避難することができたので無事でしたが、ヘロデ王は恐ろしいことにベツレヘム近辺の2歳以下の子供を皆殺しにしました。ヘロデ王の心は自分以外の何かに支配されることをおそれる人の心です。自分が人の思うがままのまな板にのせられたり、批判されたり、指図されたりすることを嫌い、そうなりそうになると不安がついて自分を守るためにとんでもない行動に駆り立てられます。ヘロデ王は外面的には人々を支配し、人々から恐れられていましたが、実は自分自身が恐れに支配されていた寂しい人でした。

神さまを信じるのは、神様に信頼することです。神様は私を支配して、辱めて、不幸にすると勘ぐっているヘロデのような心に、神様への信頼は宿ることができません。私たちの考えではなく聖書のみ言葉によって私たちは、まことの神さまが私たちを大切に思ってくださっていることを知ります。罪深い、かたくなで獰猛で、傲慢で孤独な私を赦すために、独り子であるイエス・キリストを私のためにお送りくださって、十字架の犠牲によって実現してくださった愛なるお方です。ヨハネ第1の手紙3章16節に「主イエス様はわたしたちのためにいのちを捨ててくださいました。そのことによってわたしたちは愛を知りました。」と記されています。恐れに満ちた心は神様の愛でとかされて、神様を信頼する心に変えられます。

博士たちの喜びは研究成果を確認できた喜びではありませんでした。科学者として推察した仮説が、やはり正しかったということがわかった喜びではなかったのです。博士たちは神さまという概念を信じていたのでもありませんでした。自分の考えで作出し修正する神様の概念ではなく、そこに現に赤ちゃんとして生まれて下さった神さま、人となられた神様、自分の想像の世界ではなくて自分の他者として、むしろ自分を作り、愛し、語り、祈りを聞いてくださる方と出会う喜びを得たのです。その出会いの方法は神様が定めてくださいます。神様は聖書のみ言葉によって語り、イエス・キリストのみ名による祈りを聞き罪の赦しを宣言されます。洗礼と聖餐で私たちの罪を赦し、そこに新しいキリストの命をみなぎらせてくださいます。

礼拝に行かなかったのはヘロデ王だけではありませんでした。民の祭司長や律法学者たちもベツレヘムで生まれた、と聖書の言葉から教えることができたのに、自分たちはイエス様のところに行きませんでした。なぜでしょうか。彼らは王様に呼び出される光栄にあずかり、その命令に忠実にこたえました。人としての名声は高かったのです。しかも、聖書を知っていました。それも人に教えることができるほどに完璧に知っていました。しかし聖書のみ言葉が自分のための神さまの語りかけではなかったのです。聖書を自分に語られていることではなく、他人事

として、一般論として、教養として知っていたのであって、自分の心に受け止めることはなかったのです。

こんなに聖書に近く暮らしていた彼らが、イエス様に会えなかったのはとても残念です。しかし、このような心は私たちにも起こります。聖書の言葉はもうよく知っている。あらためて聴くまでもない。謙遜に聖書に学び、聖書に取り組んでいる人を見て、自分もあんな時代があったけど、今は神様のことなら大体わかる、と冷たい心になっていることは私たちにも起こります。自分の姿を照らし出して悔い改めを迫る聖書のみ言葉に出会っても、人には、悔い改めることは大切なことです、と教えて、自分は神様に指一本触れさせないように守ることで、心配事は神様にゆだねて、信頼して安らかな気持ちで、神様と人々に精一杯の工夫と愛をもって役立っていくことを知らされても、そんなことはもうわかっている、と自らの心に当てはめないことです。めんどろに思っているのでしょうか、初歩的なこととして軽んじているのでしょうか、何か冷めています。

一方博士たちは教えてもらった通りベツレヘムに向かっていくと、東の国で見た星がさらに導いてくれて幼子の家の上にとどまったのを見ました。博士たちは、ここでイエス様に会える、と喜びにあふれました。そして家に入って、母マリヤと一緒にいる幼子を見て、ひれ伏して拝んだ。そこで自分の大切な宝物を贈り物としてささげました。イエス様が私たちの救い主として生まれてくださったことを心から喜び、この方にこれまで蓄えてきた宝物のすべてをささげました。これまで大切だと自分の宝物を握りしめて、心がそこに奪われていたことから解放されました。救い主イエス様をひれ伏して拝むとき、これまで握りしめていた手を開いて、神様を見上げ、神様からいただく恵みに心を向け、喜ぶものに変えられていきました。博士たちは喜んで家路につきました。自分のすべてを明け渡しても不安にならず、むしろさらに恵みをいただく神様への期待で胸躍るその喜びは、わたしのために生まれ、死に、よみがえってくださったイエス様を礼拝するところから始まります。

第3に、博士たちは「別の道」を通って帰っていきました。イエス・キリストと出会い、まことの神さまの愛と真実に導かれて歩むようになりました。新しい歩み、これまでとは別の道を歩む人生に変えられました。家に帰って、それまでと同じ人々とともに、同じ仕事をしたのですが、彼らが変わられたのです。一日の初めにすることが変わりました。人生でたいせつにすることが変わりました。何のために生きるのか、とわからなくなって、結局、自己満足と自己実現を求めて生きるように、人に迷惑をかけない範囲で自分のこだわりと生き方を貫くことを求めるか、あるいはそれを許さない現実を受け止めてあきらめるかしかなかったところから、まったく新しい視点をいただいて、神様からの恵みをいただいて、自分を人々の幸せのために用いていただく喜びの道に変えていただきます。毎週み言葉によって強められ、毎日イエス様と共に歩む道に変えられます。自分の姿を知り、現実の厳しさを見ても、現実逃避しないで、神様が現実の中にきてくださったことを認めて、ため息を希望の祈りに変えて下さる神様を信じて歩む歩みに変えてくださいます。

今年私たちの教会は、第1テモテ1章12-18節から「あふれるばかりの主の恵み」を標語にして歩みます。目標は「強めて下さるキリストに感謝する(12節)ことです。1. 罪びとであることを悔い改めよう(15節)、2. 主の忍耐と憐みの証しをしよう(16節)、3. 礼拝でみ言葉に力づけられて(18節)歩みます。

本年、私たちが神様の恵みを受けて歩む一年となります。お祈りいたしましょう。

「愛する神様、新しい年を与えて下さって感謝をいたします。本年も聖書のみ言葉によって導かれる幸いをお与えください。神様を礼拝し、イエス様のみ言葉をいただき、これまでとは別の道を歩む喜びの一年としてください。また、この喜びを人々にも分かち合う一年でありますように導いてください。主イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン」

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讃美歌 495 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 イエスよこの身を ゆかせたまえ、愛のしたたる 十字架さして、
 <繰返し> 我はほこらん ただ十字架を、天(あま)つ いこいに 入(い)るときまで。
- 2 十字架にすぎる 弱きわれは、今ぞ知りぬる 深き恵み。 <繰返し>
- 3 十字架の上に 喜びあり、たえず御陰(みかげ)に よらせたまえ。 <繰返し>
- 4 かがやく国に のぼる日まで、十字架のもとに 立ちてぞ待たん。 <繰返し> アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。アーメン

後奏